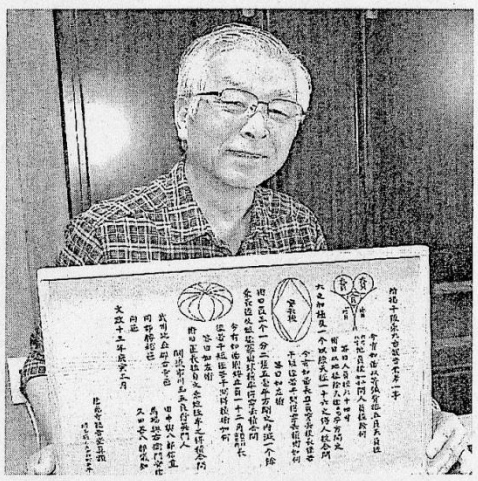
北武蔵にもいた「和算家」

毛呂山出身の男性 研究成果一冊に

「和算」という日本独自の数学がある。江戸時代に地図作成や地租改正の測量に活躍し、県北西部にも多くいたという和算家の足跡や、県内各地の和算書、寺社奉納の算額（さんがく）などを毛呂山町出身の山口正義さん(72)＝東京都羽村市＝が調べ、「北武蔵の和算家　埼玉北西部の算者たちの事績」（まつやま書房）にまとめた。

和算はかつて算学や算術と言われた。面積や比例・反比例、ピタゴラスの定理に相当する数学書が古代中国から伝わり、江戸時代には答えを付けない難問を出して後世の人に正解を求める「遺題継承（いだい）」が始まった。

安楽寺（吉見観音）の算額。矢嶋久五郎が文政５年に奉納した、とある（152㌢×80㌢）＝山口正義さん提供


ときがわ町の慈光寺の観音堂にかつて掲げられ、風化で読めなくなった「算額」の約４分の１の模型を作製した山口正義さん＝東京都羽村市

メーカーでソフトウェアやシステム開発に携わってきた山口さんは、定年退職前に和算に関心を持つようになった。

江戸中期の和算家・中根元圭が尺八など日本の伝統音楽の音律を小数点以下10桁まで正確に計算していたこと、更にそれを記した書物の中に中根門下で出身地に近い飯能出身の天文暦学者・千葉歳胤（たたね）の名があったことに感激した。国立天文台図書室（東京）などで資料を集め、和算書を読み込むため地元の古文書講座にも通った。

約80年前の研究書をもとに、江戸中期～明治に県北西部で活躍した和算家の足跡をたどった。彼らが難問を記して各地の寺社に奉納した「算額」を調べたり、和算家の実家を訪ねたりもした。各地に残る和算書や碑文、墓石なども調査し、新たに発掘した和算家を含め、約70人の人物伝とともに著作にまとめた。

和算は武士階級から裕福な農民らにも広がったが、明治政府が洋算を採用したため衰退した。だが山口さんは「彼らは測量術を研究し、地租改正の際には各地で活躍した。そんな和算家が地元にいたことを知ってほしい」と話す。

A5判、398ページ、2500円（税別）。人物の履歴や流派、業績、遺品、現地取材で得た図録も収録。問題や解法も掲載した。問い合わせはまつやま書房（0493・22・4162）。

（大脇和明）

朝日新聞 埼玉版 平成30年4月25日